

City Life NEWS

全国で注目される施策や課題は、地域で暮らす私たちにどう影響するのか?身近に起きた出来事やトレンドなど、幅広い分野のニュースを紹介していきます。ネットでもさまざまなニュースを紹介しています。



シティライフNEWS で検索

受診率向上で早期発見へ がん撲滅の鍵は検診

医療の進歩により、1990年代半ばをピークに、日本人のがんによる死亡率は減少している。一方で、高齢化が進む中、がんにかかる割合は1980年代以降増加傾向にある。生存率が高まっているとはいえ、患えば生活の質を下げるがん。予防や早期発見のためには、何をすればいいのだろうか。



がん死亡の原因の多くがタバコと“要因不明”

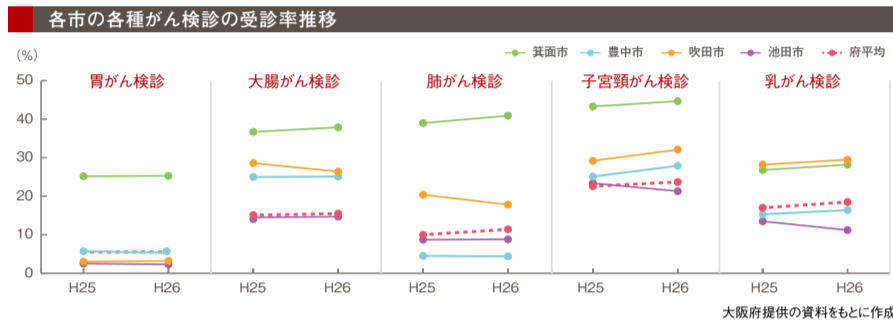
2012年の国立がん研究センターの予防研究グループの報告によると、日本人のがん死亡の原因として代表的なものがタバコと感染症だが、食生活や運動不足が影響するケースはわずかで、実はそれ以外は「要因不明」である場合が多い。双子が同じがんにかかる確率を調査したフィンランドのデータによると、両方ががんにかかったのは一卵性でもわずか13%で、遺伝が原因であるケースもそれほど多くない。また、がんを防ぐと言われる食物には確実に認定されているものはなく、サプリメントでビタミンを大量摂取した結果、健康になるどころか肺がんの罹患率が18%上昇したという実験結果もある。大阪国際がんセンターがん対策センターの中山富雄氏は、「がんは多くの場合原因不明で、確実な防衛因子もないのが現状です」と話す。



大阪国際がんセンターがん対策センター疫学統計部 部長 医学博士 中山富雄氏

早期発見に繋げるがん検診の傾向

予防策がない以上、がん検診による早期発見は非常に大切だ。協会健保組合は、各企業に対し従業員への「職域がん検診」の実施を指示している。しかし、実施の最終的な判断は企業に委ねられており、大企業に比べると中小企業では実施率が低くその内容もまちまちだ。こうした問題に対し、国では職域がん検診の基準となる指針を定めることを決定し、精力的にサポートする動きを見せ始めている。兵庫県では、健康づくりに取り組む企業や団体を「健康づくりチャレンジ企業」として登録し、従業員数が300名以下の企業に対しては、乳がんや子宮頸がんの受診費用を全額または一部補助するなど企業のがん対策をサポートしている。



非正規の従業員や専業主婦など、職域がん検診を受診できない人には、各市町が実施するがん検診が提供されている。大阪府では、高齢者が多い市町では受診率が高いものの、全国と比較すると受診率は全体的に低い。中山氏によると、受診率は検診の受けやすさによっても大きく左右されるといふ。例えば、日程が決まっている集団検診より、希望日にかかりつけ医で受診できる個別検診を行なっている自治体のほうが受診率は高い傾向にある。乳がんを除いて受診率が府内トップの箕面市では、**全てのがん検診で個別検診か集団検診を選べるほか、集団検診であっても自分の好きな日に予約を入れて受診できる**。吹田市では、**胃がん以外の検診は市内にある数多くの協力医療機関で受診できる**ためか、胃がん以外の、他のがん検診の受診率は府内でも上位の受診率となっている。

受診率向上のための各市町の取り組み

受診率の向上を目指して、各自治体は様々な取り組みを進めている。**箕面市では、1998年から全てのがん検診を無料化**。また集団検診の場合、5大がん検診を1日でまとめて受診できるというメリットもあり、住民の検診への意

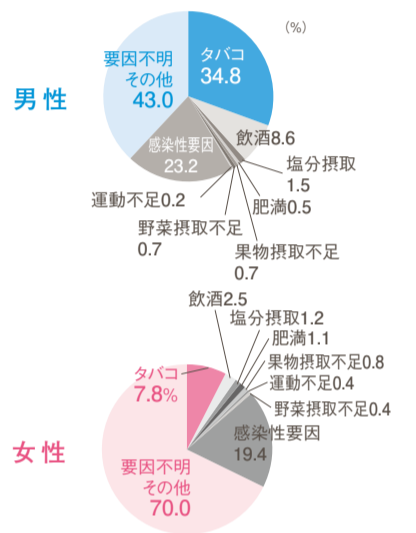
	胃がん	大腸がん	肺がん	子宮頸がん	乳がん
箕面市	40歳以上。無料	40歳以上。無料	40歳以上。無料	20歳以上。無料	40歳以上の偶数年の方無料(2年に1回)
豊中市	40歳以上。800円	40歳以上 300円 ※特定健康診査とセット受診で無料	40歳以上。無料。 (喀痰検査200円)個別なし	20歳以上の女性。 600円(頸部は1,000円) 2年に1回	30歳以上の女性。 2年に1回。500円
池田市	満35歳以上。X線間接撮影:69歳まで1,200円、70歳以上500円。 X線直接撮影:69歳まで4,000円、70歳以上2,000円	40歳以上。 69歳まで1000円 70歳以上500円	満40歳以上。喀痰なし:69歳まで1,500円。70歳以上700円。喀痰あり:69歳まで2,200円。70歳以上1,000円	満20歳以上。2年に1回。頸部のみ:69歳まで1,600円。70歳以上800円。体部含む:69歳まで2700円。70歳以上1,200円	満40歳以上の女性。2年に1回。集団69歳まで1,200円、70歳以上500円。個別69歳まで1,500円、70歳以上700円(マンモグラフィ)。
吹田市	満35歳以上。1,000円個別なし	満40歳以上。300円	満40歳以上。400円 (喀痰検査は必要な人のみ別途500円)	満20歳以上で、今年の誕生日で偶数年齢になる女性。500円(体部の細胞診が必要な場合、別途500円)。	満30~39歳の女性。視触診のみ700円。満40歳以上で、今年の誕生日で偶数年齢になる女性。視触診とマンモグラフィ1,000円。

識が高まっている。吹田市では、以前は50歳と60歳のみを送付していた胃・肺・大腸がん検診の受診勧奨のハガキを、**年齢対象を40~60歳に広げたことで受診者数が増えつつある**。また同市は、**禁煙治療にかかる費用の助成制度を今年5月からスタート**。府内でも初めての取り組みで、禁煙外来で治療を終えた人先着100名に最大1万円を助成し(事前申請必要)、肺がんや生活習慣病予防を目指す。ただ、こうした取り組みにも関わらず、国の掲げる目標受診率50%には全国ほとんどの市が届いていない。今後、検診への意識をどう高めようアプローチするかが各自自治体で課題となっている。

予防や早期発見に求められる対策

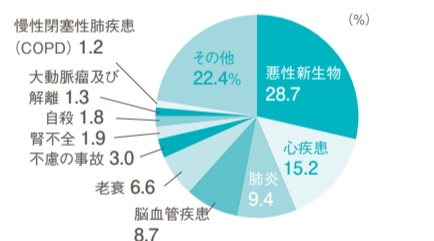
「**早**期発見できれば、手術や内視鏡など治療法の選択肢は多い。放射線治療など新しい治療法もたくさん出ているので、まずは検診を受けてほしい」と話す中山氏。「肺がんを調べる腫瘍マーカーの「シフラ」の場合、40%のがんが見落とされ5%の人はがんではないのに陽性反応が出ます。腫瘍マーカーの中で最も精度が高いとされるシフラでもこうですから、早期診断には血液検査ではなく画像診断が必要です」。さらに重要なのは「正し

日本人のがんの死亡原因



出典: Inoue M. Annals Oncol 2012

主な死因別死亡数の割合(平成27年)



出典: 厚生労働省 平成27年人口動態統計より

い知識を持つこと」と中山氏。インターネットに出回るネガティブな情報に振り回されず、国立がん研究センターなど公的な機関から情報を入手することを勧めている。がんはあらゆる死因の中でも死亡数でワースト1であり、かつそのうちの約3割をも占める。国や府県でも新たながん対策推進計画を立てている最中だが、「自治体は、若い世代にもっと手厚いサポートをしてほしい」と中山氏。今後、早期発見が必要な若い世代を検診にどう呼び込めるか、広まっていくと期待される。